



掌中源氏物語

片寄藏書



あしあつに新は津と
ほりんへのたえとやひ
たせののまくなまのぬ
あさうはあまのま
すれむ

寛政のつはののりよ
牡丹とれうく日

尾崎雅嘉識

掌中源氏物語 弁端

紫式部傳

○大日本史二百二十三のい
紫式部の越前守藤原の
時のひすあなり。資性
かーくく。けさる
の書校よむ河間て
よておひ。さあ父のあ
ふつら。てきよい
せんら。おのころく
よがうて。うく。み
いろく和漢の舊記
て。のて。庭の故実
通せん。の何と右
佐藤系の宣孝と嫁
女賢子。あ。宣孝
てな。う。ひ。娘。子。の
ひ。あ。い。も。と。夫
遺せ。一。書。校。え。か
娘とす。付。一。條。比。の。序。版

上東門院ナカノミヤ中ナカノミヤあきかせ
は文の道ナカノミヤ何ナカノミヤあきかせたし
才ナカノミヤ巧ナカノミヤ婦人ナカノミヤをナカノミヤうナカノミヤのナカノミヤくナカノミヤ左
右ナカノミヤはナカノミヤけナカノミヤひナカノミヤなナカノミヤりナカノミヤたナカノミヤまナカノミヤす
式部ナカノミヤもナカノミヤにナカノミヤけナカノミヤつナカノミヤたナカノミヤてナカノミヤま
川ナカノミヤさナカノミヤらナカノミヤしナカノミヤ時ナカノミヤ中ナカノミヤまナカノミヤ白ナカノミヤ氏ナカノミヤ文
集ナカノミヤはナカノミヤみナカノミヤたナカノミヤりナカノミヤんナカノミヤとナカノミヤくナカノミヤ或
とナカノミヤくナカノミヤ樂府ナカノミヤ二ナカノミヤ卷ナカノミヤをナカノミヤし
へナカノミヤたナカノミヤてナカノミヤまナカノミヤのナカノミヤりナカノミヤえナカノミヤたナカノミヤまナカノミヤ中
まナカノミヤのナカノミヤりナカノミヤ又ナカノミヤ所ナカノミヤ堂ナカノミヤのナカノミヤ開ナカノミヤ白ナカノミヤ入ナカノミヤ長
とナカノミヤ式部ナカノミヤがナカノミヤ才ナカノミヤとナカノミヤもナカノミヤとナカノミヤ物ナカノミヤを
てナカノミヤたナカノミヤまナカノミヤのナカノミヤりナカノミヤたナカノミヤまナカノミヤと
ほナカノミヤらナカノミヤりナカノミヤのナカノミヤりナカノミヤでナカノミヤつナカノミヤわ
らナカノミヤりナカノミヤあナカノミヤらナカノミヤすナカノミヤ保ナカノミヤ氏ナカノミヤの
注ナカノミヤ五ナカノミヤ十ナカノミヤ四ナカノミヤ帖ナカノミヤにナカノミヤあナカノミヤらナカノミヤせナカノミヤり
ゆナカノミヤりナカノミヤ延ナカノミヤ喜ナカノミヤ朱ナカノミヤ在ナカノミヤ村ナカノミヤ上ナカノミヤのナカノミヤと
朝ナカノミヤのナカノミヤ記ナカノミヤしナカノミヤもナカノミヤはナカノミヤくナカノミヤまナカノミヤの
ふナカノミヤりナカノミヤのナカノミヤりナカノミヤ吉ナカノミヤ今ナカノミヤ又ナカノミヤ抜ナカノミヤ群ナカノミヤし
るナカノミヤ名ナカノミヤ文ナカノミヤなナカノミヤりナカノミヤ一ナカノミヤ條ナカノミヤ帝ナカノミヤのナカノミヤの
まナカノミヤのナカノミヤりナカノミヤ何ナカノミヤもナカノミヤをナカノミヤまナカノミヤしナカノミヤてナカノミヤいナカノミヤく
大ナカノミヤ賞ナカノミヤみナカノミヤたナカノミヤしナカノミヤいナカノミヤいナカノミヤれナカノミヤハ

よナカノミヤくナカノミヤ日本ナカノミヤ紙ナカノミヤ紙ナカノミヤるナカノミヤんナカノミヤんナカノミヤド
らナカノミヤりナカノミヤのナカノミヤりナカノミヤなナカノミヤらナカノミヤいナカノミヤもナカノミヤはナカノミヤせナカノミヤらナカノミヤま
しナカノミヤるナカノミヤ。式部ナカノミヤ紙ナカノミヤ日ナカノミヤ中ナカノミヤ紙ナカノミヤ乃
局ナカノミヤもナカノミヤ呼ナカノミヤぶナカノミヤるナカノミヤ。式部
ハナカノミヤひナカノミヤなナカノミヤらナカノミヤりナカノミヤやナカノミヤもナカノミヤらナカノミヤりナカノミヤす
なナカノミヤらナカノミヤりナカノミヤいナカノミヤくナカノミヤあナカノミヤらナカノミヤりナカノミヤの
才ナカノミヤ智ナカノミヤ又ナカノミヤほナカノミヤらナカノミヤりナカノミヤすナカノミヤ。そのナカノミヤのナカノミヤど
とナカノミヤらナカノミヤいナカノミヤくナカノミヤるナカノミヤ。あナカノミヤらナカノミヤりナカノミヤすナカノミヤ
もナカノミヤらナカノミヤだナカノミヤらナカノミヤいナカノミヤくナカノミヤハナカノミヤあナカノミヤらナカノミヤりナカノミヤのナカノミヤりナカノミヤ
日ナカノミヤ記ナカノミヤ紙ナカノミヤ紙ナカノミヤるナカノミヤあナカノミヤらナカノミヤいナカノミヤくナカノミヤむナカノミヤす
めナカノミヤのナカノミヤ賢ナカノミヤもナカノミヤ又ナカノミヤ和ナカノミヤ勢ナカノミヤ紙ナカノミヤ紙ナカノミヤらナカノミヤりナカノミヤ
ハナカノミヤいナカノミヤてナカノミヤ狭ナカノミヤ衣ナカノミヤ紙ナカノミヤ紙ナカノミヤつナカノミヤくナカノミヤ也ナカノミヤ。太
宰ナカノミヤの大ナカノミヤ貳ナカノミヤ高ナカノミヤ陸ナカノミヤのナカノミヤ成ナカノミヤ章ナカノミヤ又
嫁ナカノミヤしナカノミヤるナカノミヤ。後ナカノミヤ冷ナカノミヤ泉ナカノミヤ院ナカノミヤのナカノミヤ侍ナカノミヤ乳
母ナカノミヤもナカノミヤらナカノミヤりナカノミヤ。大ナカノミヤ貳ナカノミヤのナカノミヤとナカノミヤ位ナカノミヤもナカノミヤらナカノミヤいナカノミヤくナカノミヤなナカノミヤらナカノミヤりナカノミヤ。

○日本春秋十二。一条院寛
弘五年の事。式部
中納言藤原の兼輔の曾
孫。越前もあつた。のむす。佐藤
の佐藤。亦の宣考。始て。

かー 醍醐入彦天彦
 今より上さまの御孫の御孫
 かくつげくもぬく御孫
 後には捨送り名保氏のまき
 の名がよき御孫のまき
 出たは 行中納言雄
 神垣ハシのまき御孫のまき
 一のまき御孫のまき
 一のまきのまき御孫のまき
 かかすうのまき御孫のまき
 ひまき御孫のまき御孫のまき
 新撰古今言集源の御孫
 かくてはの遠長又御孫
 すめく保氏御孫のまき
 御孫のまき御孫のまき
 侍のまき御孫のまき
 ろろと あま御孫のまき
 かきりとして御孫のまき
 かきりとして御孫のまき
 一のまき御孫のまき

寂惠は
 一のまき御孫のまき
 一のまき御孫のまき

源氏君年譜

桐壺 誕生より 筥木 十三年
 空蝉 同 夕顔 同
 若紫 十七年 末摘花 十七年
 紅葉賀 十八年 花宴 十九
 葵 廿二年 柳 廿二年
 花散里 廿四年 酒磨 廿五年
 明石 廿七年 遷標 廿七年
 蓬生 廿八年 関屋 廿九年
 繪合 三十 松風 日
 薄雲 卅一 權 卅一
 乙女 卅二 玉鬘 卅五

初音 廿五月
胡蝶 廿四月

堂 同
常夏 同

篝火 同
野分 同

行幸 廿三月
藤袴 廿八月

楨柱 廿九月
梅枝 廿九月

藤裏葉 廿九月
若菜上 廿九月

若菜下 廿三月
柏木 廿八月

横笛 四十九
鈴虫 五十

夕霧 五十八月
御法 五十八月

幻 五十二月
雲隠 有各魚

白兵部卿 廿九
紅梅 廿九

竹河 廿九
蕙 廿九

字治十帖 蕙
蕙 廿九

橋姬 十七十八
推本 廿

總角 廿二
早蕨 廿二

宿木 廿三廿四
東屋 廿四

浮舟 廿五
蜻蛉 廿五

手習 廿六
夢浮橋 廿六

源氏のついでなりく。六條はま
らふりたふ。田一巻を二巻一
たす。六條塔より鞠まであり
びの目拍ふ。鳥居のついで
さう。女房はさう。ついであり
たす。柏木の巻をたす。たす
う。たす。田一巻をたす。たす
せ。たす。ついであり。たす
し。たす。

一條のま 夕雲の巻より一條
侍息のま。

一條侍息の 夕雲の巻より侍母
か。夕雲の巻より

うせよ。 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 のまのま。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

一人 夕雲の巻より。夕雲の巻より

次の一は月日攝摩のまめ
 の浦のりういたすふけい
 林はつ所まきうくめ
 さふさふのくほくめ
 こあしこまうねれおの大細え
 こちうたふふねつぐーのまよ
 四女をくめくまふさのまよ
 牛車御ゆりくふかぢい
 たまひ女のまよ太はちれり
 老よなはれ例く佳ら屋の
 宣旨板下う。幸の徳おぼ乃
 ちまきせなてまのり
 ぼめく。海のくまのまよ
 下れ礼殿けいめく。た
 太上天皇のまよ位まなぐ
 陰まをう。封たたりうま
 とや。まよ六。先くれめ
 まらつてのまよくま
 ころ藤人のつけま

六條御息下
 大君の御むすめ
 十ふくちの坊
 まつ。林好かみ
 十九くあまのまよ

可くむすめの命
 伊勢下アなや。林の老
 ちま。まのまよのまよ
 ちま。まのまよのまよ
 せなひぬ保氏のまよ
 もめ。まのまよのまよ
 けののけ。まのまよ
 うま。まのまよのまよ
 六條前齋宮
 ちま。まのまよのまよ

六君
 大君の御むすめ
 ちま。まのまよのまよ
 ちま。まのまよのまよ

草帯本
 ちま。まのまよのまよ
 ちま。まのまよのまよ

花散里の上
 ちま。まのまよのまよ
 ちま。まのまよのまよ

ちま。まのまよのまよ
 ちま。まのまよのまよ
 ちま。まのまよのまよ

うらむりの原内侍のすけのなま
ははえまきひき

女御 たまのむすめ あまのむすめ
けいこうはたまのむすめ

たまのむすめ
たまのむすめ

堂兵部卿宮 きうけい
の侍子

いしゆのふとさきさきし女の
たまは朱雀御ま

仁平御の内の人のしん
らいつく

法務卿 ほふぶ
このむすめ

平内侍 へいうち
たまのむすめ

辨内侍 へんうち
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

辨君 へんきみ
たまのむすめ

よかぢ
まふあつてやま

春宮の女所 父方の所むすめ
母方の所むすめ

大佐の二女 むすめ

春宮宣旨上目 今よきまの
宣旨上目内侍の

すけつぬ

春宮大夫 たふたのり
保氏と保之の所

かやこしつひさしつり日

ちの井つぎつぎつね

くし 持が初め

左大臣の所むすめ

致仕の太政大臣

まふ保氏のこと

つぎつ

左大臣の所むすめ

右大臣の所むすめ

今よの母方おほぢの
たふたのりよていげ

左大臣の所むすめ

右大臣の所むすめ

内侍の所むすめ

つぎつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

いしつ

このつとく。昔の代りてしやう
たつたつと。白虹日輪つとぬ
りつと浦せんんて。又は大御江。

右大納言

右大納言の御名。右大納言の御名。右大納言の御名。

も。原氏と希子の御名やしとよ
らひつとつと。日。致仕の御名
引つとつとつと。人。つと。つと。
のきんじつし。女の御名も。

右中納言

右中納言の御名。右中納言の御名。右中納言の御名。

みれ二女。行の御名。右月。つと。
や。つと。つと。つと。つと。つと。
つと。

右宰相

右宰相の御名。右宰相の御名。右宰相の御名。

と。つと。つと。つと。つと。つと。
才と。つと。つと。つと。つと。つと。
つと。

右式部

右式部の御名。右式部の御名。右式部の御名。

の。人。つと。つと。つと。つと。つと。
つと。

右内侍のすけ

右内侍のすけの御名。右内侍のすけの御名。右内侍のすけの御名。

の。つと。つと。つと。つと。つと。
つと。

時方

時方の御名。時方の御名。時方の御名。

つと。

中宮

中宮の御名。中宮の御名。中宮の御名。

つと。

中宮

中宮の御名。中宮の御名。中宮の御名。

つと。

中宮大夫

中宮大夫の御名。中宮大夫の御名。中宮大夫の御名。

つと。

中納言

中納言の御名。中納言の御名。中納言の御名。

つと。

中納言の女 スズメ 頼朝の女房
てんきごとの女房
のりよし。

中納言君 スズメ 表の女房 保氏
のひくまの女房
すずの別の時もさすまのひ

中納言君 スズメ いけられた女房
方け女房をいひの
のかーきん

中納言君 スズメ 表の女房
てな女房
うしひくまの女房

中将 スズメ 表の女房
致仕太政大臣の女房

中将亮 スズメ 表の女房
ふりつはせん

中将令ぬ スズメ 表の女房
いひる人

中将君 スズメ 表の女房
ふんのみよし
常陸守の女房

中将君 スズメ 表の女房
ちきり女房

中将君 スズメ 表の女房
六条時忠の女房

中将君 スズメ 表の女房
たちひははの四月
かのひのひの

中将君 スズメ 表の女房
ひげらふらふ
さるの女房

中将君 スズメ 表の女房
ふんのみよし
表人の女房

中将君 スズメ 表の女房
のりよし
表人の女房

中将君 スズメ 表の女房
こころの女房

致仕太政大臣 スズメ 表の女房
母八相重の女房

太政大臣 たうせいだいじん 方のくまのきこて
はかののし。

太政大臣 たうせいだいじん し女のくまのきこて
のし。

太宰大貳 たさいだいじ 保良すまの
あつたすし。

太宰大貳 たさいだいじ 保良すまの
あつたすし。

太宰大貳 たさいだいじ 保良すまの
あつたすし。

太宰少貳 たさいしょうじ 保良すまの
あつたすし。

太宰少貳 たさいしょうじ 保良すまの
あつたすし。

太宰少貳 たさいしょうじ 保良すまの
あつたすし。

太宰少貳 たさいしょうじ 保良すまの
あつたすし。

太宰少貳 たさいしょうじ 保良すまの
あつたすし。

太宰少貳 たさいしょうじ 保良すまの
あつたすし。

大貳君 だいじきみ 保良すまの
あつたすし。

大貳君 だいじきみ 保良すまの
あつたすし。

大貳君 だいじきみ 保良すまの
あつたすし。

大貳君 だいじきみ 保良すまの
あつたすし。

大貳君 だいじきみ 保良すまの
あつたすし。

大貳君 だいじきみ 保良すまの
あつたすし。

大貳君 だいじきみ 保良すまの
あつたすし。

大貳君 だいじきみ 保良すまの
あつたすし。

大貳君 だいじきみ 保良すまの
あつたすし。

大貳君 だいじきみ 保良すまの
あつたすし。

大貳君 だいじきみ 保良すまの
あつたすし。

大臣 六条侍息おゆめ

大臣 室御女のお方のみ

大臣 藤原家女侍おみおのり
かたのらみ

大将 まはららのきよひげが
のり

大将の本室 おらみのおむす
めまはらのみ

大将君 あつひのきよはらの
み

大学君 しすのきよきよの
み

大内記 たすのきよきよの
み

大楠 おのきよきよの
み

おのきよきよの
み

大輔命婦 おんきよきよの
み

おのきよきよの
み

おのきよきよの
み

おのきよきよの
み

おのきよきよの
み

大楠君 おのきよきよの
み

いーん おのきよきよの
み

大夫君 おのきよきよの
み

大夫監 おのきよきよの
み

竹下大夫 おのきよきよの
み

③ 仲の文
ほのぼのとした
ささやかなる

仲の文
桐葉のついでに
のり。昔の巻より
流のついでに
せしめ。日暮れまはせし
まはる。なすひん。結句の巻
もす。う。ん。

仲の文
二条の巻のついでに
う。ん。のついでに

④ 中務の文
桃園のついでに
ものついでに

中務の文
今このついでに
六條のついでに

中務の文
このついでに
ふ。ん。のついでに

中務の文
なすひん。のついでに
う。ん。のついでに

中務の文
なすひん。のついでに
う。ん。のついでに

中務の文
なすひん。のついでに
う。ん。のついでに

中務の文
なすひん。のついでに
う。ん。のついでに

中務の文
なすひん。のついでに
う。ん。のついでに

中務の文
なすひん。のついでに
う。ん。のついでに

中務の文
なすひん。のついでに
う。ん。のついでに

中務の文
なすひん。のついでに
う。ん。のついでに

中務の文
なすひん。のついでに
う。ん。のついでに

中務の文
なすひん。のついでに
う。ん。のついでに

ひらうあひひたり〜
あつまのの〜
彼らのあの方やう〜

梅壺 梅壺のきよはら
秋姫 秋姫のきよはら

梅壺 梅壺のきよはら
梅壺 梅壺のきよはら

梅枝右大臣 梅枝右大臣のきよはら
梅枝 梅枝のきよはら

馬 馬のきよはら
馬 馬のきよはら

馬助 馬助のきよはら
馬助 馬助のきよはら

ひら〜
ひら〜

ひら〜
ひら〜

ひら〜
ひら〜

ひら〜
ひら〜

③

宇治宮 相壺の降の降子母ハ
大倉のむすめ。えハ

雀 雀の降母后のきよはら
雀 雀の降母后のきよはら

雀 雀の降母后のきよはら
雀 雀の降母后のきよはら

雀 雀の降母后のきよはら
雀 雀の降母后のきよはら

雀 雀の降母后のきよはら
雀 雀の降母后のきよはら

雀 雀の降母后のきよはら
雀 雀の降母后のきよはら

雀 雀の降母后のきよはら
雀 雀の降母后のきよはら

宇治大姫 宇治大姫のきよはら
宇治 宇治のきよはら

宇治 宇治のきよはら
宇治 宇治のきよはら

宇治 宇治のきよはら
宇治 宇治のきよはら

宇治律師

宇治のよしのはらひを
池まきつゝいじ

とつてはてまらふとくしあのき
よらうらうらうのきよは

右大臣

二条太政大臣のよしの
はのちまつたけい

右大臣殿

ちつたけのきよはら
まのちかた

右大臣の君

ちのちのきよは
けいけい

右大将

よしのきよはら
まのちかた

つゝ人

右大将

まきつゝのきよは
けいけい

右大赤

ひげごはらちのきよは
まのちかた

右大赤

まきつゝのきよは
まのちかた

右近

まきのちかた
はらのきよは

右近

まきのちかた

右近君

一条のちかた

右近君

まきのちかた
はらのきよは

まきのちかた
はらのきよは

右近大夫

まきのちかた

右近君

まきのちかた

まきのちかた
はらのきよは

まきのちかた
はらのきよは

まきのちかた
はらのきよは

まきのちかた
はらのきよは

野路大臣 ひげの右大臣の
すしりのめりつぎい

大宮 権佐のち方くせのめりつ
すしりのめりつぎい

大宮 こまの人の大宮いふのめり
すしりのめりつぎい

大殿 あついのめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大殿 さうらのめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大殿 さうらのめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大殿 さうらのめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大殿 さうらのめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

大藏大輔 董大輔のめりつぎいをち方の
すしりのめりつぎい

とらるる人

藏人辨

種の今の目内裏の所
使々くやのし人ね

同の巻るる人

藏人常侍佐

名寄のよの御所
てまつるる人

人

藏人左近将監

伊予のよの
侍のヤル

厚氏のちの御所の御所
かのよのし

人て大なるもの
かのもつた

かひの御所
かひの御所

厚氏のれけつ
かひの御所

なほのく
かひの御所

人つげのせ
かひの御所

藏人右近将監

孝徳のよの
人てかひの

かひの御所
かひの御所

かひの御所
かひの御所

かひの御所
かひの御所

藏人朝臣

人てかひの
かひの御所

かひ

藏人式部丞

孝徳のよの
かひの御所

のせよ内
かひの御所

かひの御所
かひの御所

藏人式部丞

孝徳のよの
かひの御所

ゆづり人ね

藏人左衛門

野のよの御所
使々く厚氏乃

かひの御所
かひの御所

かひの御所
かひの御所

かひの御所
かひの御所

藏人式部丞

孝徳のよの
かひの御所

かひの御所
かひの御所

冠者君

し女のよの
かひの御所

ヤ

源中納 白鳥のちかきとてまのし

源右衛門 ながしりのちかのちかきとてまのし

源内侍 源右衛門のちかのちかきとてまのし

源氏 ながしりのちかのちかきとてまのし

源氏 ながしりのちかのちかきとてまのし

源氏 ながしりのちかのちかきとてまのし

源氏 ながしりのちかのちかきとてまのし

源氏 ながしりのちかのちかきとてまのし

源氏 ながしりのちかのちかきとてまのし

源氏 ながしりのちかのちかきとてまのし

源氏 ながしりのちかのちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

藤壺女御 ちかきとてまのし

す。頼子さまのまへに、お目ごころ
くくくくくくくくくくくく

紅梅侍方 紅梅侍方のむすめ
中村左衛門紅梅のむすめ

くくくくくくくくくくくく
の丈ゆきの紅梅の侍方とありな
れぬもせせ。

小君 はつたき、侍より、この
おまつりごころ

小宰相君 甚太右の侍しん
ゆき、この女房

小少将君 一条の女房、人々
らうきくつり人

小侍後 二右、この女房、柳家の
んー、このおまつり

こもき このおまつり

惟光 このおまつり、若系
惟光のあつり

権中将 夕暮のよのつゆの
おまつり

権中納言 致任太政大臣のよ、致
任の御所の御所、原氏

くくくくくくくくくくくく
かろ、乙女のおまつり

権中納言 くくくくくくくくくく
致任の御所の御所

権中納言 くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

権中納言 くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

権中納言 くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

護持侍方 冷泉院の侍方、人
おまつり

くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

手習の三ツ君 くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

はしる人

左中辨

夕方の舟に元佐の
はあぶらつひたすひが
他々の議めせし人

左大辨

致仕大治大佐の福本
の将大細ていふり
なりし時、一条のまのり
かどをとりし人

左大辨

桐壺の巻は保氏の
うしうはちやくこま
人はあつし人まづく
松岡の老よ

左大将

りしちかたの日原氏
まははかひたすひ
は常かた菊池おくり
まづし

左大将

ははちのまはてむり
はのりし人

左大将

ははちのまはてむり
はのりし人

左大臣

今一の母はれおひら
ははちの老よ右大臣と
ははちの老よ右大臣と

左大臣

今一の母はれおひら
ははちの老よ右大臣と

左大臣

今一の母はれおひら
ははちの老よ右大臣と

左大臣

今一の母はれおひら
ははちの老よ右大臣と

左大臣

今一の母はれおひら
ははちの老よ右大臣と

左大臣

今一の母はれおひら
ははちの老よ右大臣と

いり空鞍の君は東原氏中川
の方にかつの時さうなる
侍はさうなるさうなる
おぼえぬ世はさうなる
えりさうなるさうなる
の老のほげさうなる
アアア

左近大夫

後舟のさうなる右
近さうなる

左近中将

後舟の老よ未雀也
さうなるさうなる

つぎかりりなはなはな
がめさうなるさうなる
弟さうなる

左近中将

後舟の老よ未雀也
さうなるさうなる

左近大夫

夕暮のたわのさうなる
小つくさうなる

免きさうなる。唐の揚米地
なり。改いけさうなる。

桐壺更衣母

らさうなる
妻。

桐壺女侍

ゆさうなるさうなる
さうなる

桐壺内侍

と代のみさうなる
さうなる

紀伊守

伊予さうなるさうなる
兄し。原氏のさうなる

紀伊守

大尼さうなるさうなる
さうなる

紀伊守

てさうなるさうなる
さうなる

紀伊守

てさうなるさうなる
さうなる

小山

原氏さうなるさうなる
さうなる

小山

原氏さうなるさうなる
さうなる

小山

原氏さうなるさうなる
さうなる

人。

(め)

妙法寺別當 あまのつらゆり
人 あまのつらゆりの

あまのつらゆりの人あまのつらゆりの
たすいご

(み)

御門 みかど
まじりのきりぎりすの御門
のまじりのきりぎりす

御門 みかど
後方のきりぎりすの御門
のきりぎりす

御門 みかど
のまじりのきりぎりす
のまじりのきりぎりす

所息所 みやすところ
御門のまじりのきりぎりす
のまじりのきりぎりす

所匣履 みくしきかた
御門のまじりのきりぎりす
のまじりのきりぎりす

所導沙 みとウシ
御門のまじりのきりぎりす
のまじりのきりぎりす

の存命。

宮の君 みやのきみ
御門のまじりのきりぎりす
のまじりのきりぎりす

ちまのまじりのきりぎりす

うしろ馬のまじりのきりぎりす

まじりのきりぎりす

まじりのきりぎりす

まじりのきりぎりす

宮の所方 みやのしよかた
あまのつらゆりの

宮の所方 みやのしよかた
あまのつらゆりの

宮の所方 みやのしよかた
あまのつらゆりの

宮の所方 みやのしよかた
あまのつらゆりの

宮の所方 みやのしよかた
あまのつらゆりの

宮の所方 みやのしよかた
あまのつらゆりの

宮の所方 みやのしよかた
あまのつらゆりの

宮の所方 みやのしよかた
あまのつらゆりの

宮の所方 みやのしよかた
あまのつらゆりの

宮の所方 みやのしよかた
あまのつらゆりの

氏部ハシノ氏ハシノのあらじ

氏部のとくく たうきふれや唐

ぬけの夜のあらんたけいし

右の中の

係義清 お揚磨のふ

源氏のあらくめいし

源氏のあらくめいし

源氏のあらくめいし

源氏のあらくめいし

源氏のあらくめいし

源氏のあらくめいし

大貳の化や

し

珠雀院 相違のつづの母

大貳の化や

大貳の化や

大貳の化や

主上 の

承香殿女御

承香殿四宮

承香殿四宮

承香殿四宮

つぎ

侍従 赤蔭の女房

侍従 からの女房 ぬのくさし

侍従 三つ子の女房 桃も三

侍従 赤のなひとくろのよおせ
しつたおのくさし具してふせ
降くちのちりくさしのくさし
せうねいふのふくさし

侍従 どの、庄の女房

侍従 君 うちのふの女房

侍従 宰相 夕暮のふ、昔年のまよ
白きつゆのふくさし

侍従 内侍 後食の時梅香のふ
くさし

次郎 かの、の君の乳母は河原の
太宰のか敷のふなり

はく、まおがまきけく

つぎ、くさし、ふの、ぼん、の、くさ
わな、くさし、くさし、くさし、
ふの、大夫の、監、ま、くさし、
の、くさし、くさし、くさし、
二郎君 林の、くさし、くさし、
の、くさし、くさし、くさし、

右衛門 督 夕暮のふ、母、内侍
白きつゆのふくさし
の、くさし、くさし、くさし、
くさし、くさし、くさし、

右侍 侍 致仕、太、女、の、ふ
夕暮のふ、くさし、くさし、
お、くさし、くさし、くさし、
くさし、くさし、くさし、

右衛門 督 紅、くさし、くさし、
か、くさし、くさし、
め、くさし、くさし、

右衛門 督 夕暮の、くさし、
くさし、くさし、

光君 保氏、長しらの於六条、
のみまつたかゝり。

兵部卿 白河、ついでに
の於らむり。

兵部卿 先帝の降、このま
つたかゝり。

兵部卿 このまのま
いげらうのちの

兵部の君 おがの君、代
母のち、代、太宰

兵部大輔 まへん、まへん、
令ぬのまへ。

兵部卿 まへん、まへん、
中納言のまへ、この

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

兵部卿 まへん、まへん、
まへん、まへん、

人後川の傍に於てつとんとての
凡より

兵衛、合奴 後合の時こそでん
の

兵衛太 豊後介のふじぶの
かこひりよ

常陸宮 今この侍よ、母更を
父方の大おのけり

のうつらう、あまのひり日ま
のさくひらひら

常陸宮 未格のよ

常陸の飛君 未格のいよ
ののよまよの

常陸守 せきよめをこして
すけ

常陸守 大格の格守
ののよ

常陸守の少方 大格の格守
ののよ

めいびりハ中符の君とてうひ
ーがの方うせたまひくね
まひひねしひらひらやて
ひの君かふりよのみのり

りくそかれはるこまを
まひりねをひらひら
てふよもわさ

常陸介 介のちのくけり
はらひらちたけ

か、手お目の君のま
の君よまこト一人の男

常陸介の尊の中將 昔の
の

ア、おんの色まがわくし
なびひらちのまけは
やとよし左近のやね

長瀬黒右大臣 左大臣のよ
右大臣のよ

右大臣のよ、梅がえの
わ、おれの巻よ右大臣
お事のあしり、けな
たやうせたまひら
らのまをまへ、大
灰くけり、野
の大臣より今よ

影黒大将のよ まつたの
し、い

のこけ姉。いふ大おの小け方とて
君達あやこしうたすうしほよ
大おおかづの君をかひうり
はせお中十ささうおほいでさ
ごらちのきまらぬのぬれし
そつたよていきこみゆもら
たまひしよのぬれいもさづめ
かろうらうや。大おひらの
灰ふりりしうりハしん
たよのよらう。

左の馬のこのぬこまのぬか
あうらう。

姫君 しすのまごころんせむのを
のり。

東の序方 花あまのとのりし
はのぬらうのぬれ。

いしと からけえしこのぬ
よらう。

桃園も式部桐壺のみどりの
あうらう。

あまのをこかくれせれたまゆ
おのまへとてしん権の糸ゆの

序又し。

桃園よかん中務さむらひ
あうらう。

桃園ササキ齋院イハ
権の糸ゆし。

文章博士 モロコウカセ
くま入さうの可作文
うらうらう。あまの世士ハ
たうさ。

木工君 モクノ
ひけらうのまぬのち
たかひし。あまののちのち
とさうらう。

前セ坊サキ 前のあまし。ぬ位らうら
たすらぬし。あまのぬれ

らうらう。あまのぬれ。ぬ
ぬハ相壺のぬれ。

前坊サキ兼君 あまのぬれ。ぬ
たすらぬし。

前サキ齋院 このぬこまのぬれ
とらうらう。

あまのぬれ。

先帝 先帝の御代に 孝宣天皇御代に

後御 孝宣天皇の御代に 孝宣天皇の御代に

孝宣天皇の御代に

孝宣天皇の御代に

孝宣天皇の御代に

孝宣天皇の御代に

孝宣天皇の御代に

孝宣天皇の御代に

孝宣天皇の御代に

孝宣天皇の御代に

孝宣天皇の御代に

たすいぬ。

す

末栴花の姫君 末栴花の姫君

部 部

とん糸糸のり とん糸糸

わし わし

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

とん糸糸のり とん糸糸

薫中御言漢子此穴より
日下より然るにけしき
薫中御言其の御ちりき
ヤレヌ

④ 四町のしし
良は明入るのむめ
と源氏の君のしし

良は惟光のむめ五節と
橘川の傍に母君なりしは姉
長谷川よりみかたし
いのははや

⑤ 探韻のし
大学の君進士は補す
玉の君は懐長
はつ

玉の君は雲志のし
薫合のし
筆野老のし
對ふのし
あはれのし
梅の小のし

⑥ 鹿系後の身のし
冷泉院のし
と知るし
冷泉院の息子の娘
のし

⑦ 素子裁のし
ついで五節のし
はくし
約庭道達のし

③ 空蝶のしり

ふせの基をなぐりし

ふせのたもとをなぐりし

ふせのたもとをなぐりし

め六條のほこすをなぐりし

や舟沈のほこすをなぐりし

海にまじりし

空はのほこすをなぐりし

ふせのたもとをなぐりし

秋夜ちくちく

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

④ 新橋の萩のしり

野のまのしり

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

源氏左遷サウエンのふとんトもシ

源氏ハシお山ミヤにハカ移ヒるヘたシ

源氏ハシするノのハもシ

源氏ハシ夢ユメ想ソウのシ

源氏ハシ舟フネのシ

源氏ハシ馬ウマのシ

源氏ハシ明アカ石イシのシ

源氏ハシ家イヘのシ

源氏ハシ帰カエ京キョウ宣ノボ旨シのシ

源氏ハシ本ホンのシ

源氏ハシ大オホ納ノウ言コトのシ

源氏ハシ内ウチ大オホ長ナガのシ

源氏ハシ任トクのシ

源氏ハシ任トクのシ

源氏ハシ石イシのシ

源氏ハシ牛ウシ車クルマのシ

源氏ハシ太オホ長ナガのシ

源氏ハシ堂ドウのシ

源氏ハシ内ウチ大オホ長ナガのシ

源氏ハシ太オホ長ナガのシ

源氏ハシ太オホ長ナガのシ

源氏ハシ太オホ長ナガのシ

源氏ハシ太オホ長ナガのシ

源氏ハシ太オホ長ナガのシ

源氏ハシ太オホ長ナガのシ

源氏ハシ太オホ長ナガのシ

源氏ハシ太オホ長ナガのシ

源氏ハシ太オホ長ナガのシ

ふる藤人原氏の相かえなす
すけりし期は

本枯のすめり

惟先々るのあらふゆのす

小君んすめりなむらむら

小安垣ふさのしり

小付後のしり

小ねと松はかむかむつけく二

奈の石もあふりし

五十寺の浦浦のしり

後宴のしり

琴吹花のしり

古万葉集のしり

古今集のしり

其名のしり

氷河もあふりし

手習の君もあふりし

ふかのしり

天衣文のしり

様ものあふりし

雨夜品定のしり

白風雷のしり

扇のしり

扇のしり

葵の上原氏れ君のういげ

葵の上原氏れ君のういげ

葵の上原氏れ君のういげ

葵の上原氏れ君のういげ

葵の上原氏れ君のういげ

明石入乃夫婦相のしり

明石、入る母よく保氏汝は

うきうきやあー

明石、又通琵琶は深き

あー

明石、上懐姫のやあー

明石、上女子隊のやあー

うきうきやあー

明石、上すしこーまらごのや

うきうきやあー

明石、上おのほりたやあー

ねん

明石の娘よ二条の池よ

あー

明石、上琵琶は深き

あー

明石、娘よ上常衣のやあー

明石の女隊のやあー

明石の女隊のやあー

うきうきやあー

明石のむね桃園のやあー

うきうきやあー

槿の赤花なきりの松原は

うきうきやあー

槿花散おく保中御まの

あー

舞舞は油すのやあー

あー

赤松のやあー

赤松のやあー

赤馬のやあー

あー

をいのまのやあー

あー

槿の宴のやあー

あー

帝衣二反の西様

あー

赤花群のやあー

あー

た大長致位の表は

あー

五月朔のはなは里のうら
こころなやみしり
偲城の障子に建たすあり

在五の後のしり
推中

相愛の更衣をうら
まらひしりかたのしり

少らけなら平去のしり
まぬくたりのしり

本子に侍渡はりのしり
菊の後のしり

菊のうらうは兵衛のうら
とこのしりか合はるしり

京のうらうはのしり
勅員令ぬ更衣の母はは

こころなや

五月朔の五十のをうら
しり
七六寺の浦のしり
頃ふらけのしり
茵のうらうはのしり
銀の壺は金瓶のしり
ひふふ
時ぬれやうらうのしり
なや

名
位合のしり
位合のしり
ひ
走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

走るのしり
秘色のしり
いんがのうらうのしり
いんがのうらうのしり
後破のしり
火取のしり
ひけらうは左の右のしり

琵琶の櫓ハハはく日ヒの

彼岸ヒト乃ハくハの目メの

彼ヒ人ヒト結ヒ糸イト日ヒのヒあアけケのノ

文人モノ擬ニすシのノしシす

又モまマすス試シのノしシす

お伊イ終ハのノしシす

あアはハはハあアのノしシす

あア坊ボウのノ姉シもモ糸イトをヲかカらラた

あア兼ケン仲チュウのノしシす

あア藤フジ松マツのノしシす

あア河カのノしシす

あアのノしシす

あアのノしシす

あアのノしシす

あアのノしシす

あアのノしシす

あアのノしシす

あアのノしシす

あアのノしシす

あアのノしシす

あアのノしシす

あアのノしシす

天保丁酉歲正月

京 額田心三郎

江 須原茂兵衛

大坂 葛城長兵衛

歌書類

薄用摺 美濃紙摺

本出来防皮紙

